



フットO 用地図とトレイルO

トレイルOを行おうとする時、日本においてはトレイルOのためだけに作成された地図はほとんどなく、大抵はフットO開催のために作成された地図と原図として、トレイルO用に再調査を行った上で大会は開かれています。

その際に頭に止めておきたいのは、ISOM や ISSOM は世界のトップクラスの選手が 1km あたり 5 分の速さで走りながら周囲を見、地図を読む事を念頭に作られているのに対し、トレイルOは車イスの選手が立ち止まってテレインを見、地図を読むことを念頭に置いた調査が必要となるということです。(2007年5月の第3回全日本選手権 [長崎県] はトレイルOのために作成されています)

ISOM :
国際オリエンテーリング地図規定
International Specification for Orienteering Maps

ISSOM :
国際スプリントオリエンテーリング地図規定
International Specification for Sprint Orienteering Maps

ISSOM とトレイルO

ISSOM と ISOM とは異なる概念を持った作図規定であるという事は良く聞きます。作図も ISSOM ではとても大変な作業になります。それでも ISSOM の、しかもプロ Mapper と GPS による高精度の地図があれば、トレイルOを行う時の再調査、修正にかかるコストはかなり抑えられます。私が運営に関わりました 10 月 22 日のトレイルO長岡大会では、コースプランナを始めとする運営メンバーがそれを実感できたであろうと思います。

長岡大会会場である国営越後丘陵公

園の地図調査をしていただいたジェネシスマッピングの山川克則さんには、ISSOM の地図でトレイルOを行う際の注意事項を下記の様(囲み記事)にまとめてくださっています。

世界選手権では ISSOM 主流

2004 年から開催されている世界トレイルO選手権(WTOC)では、第1回(スウェーデン)では ISSOM2004draft、第2回(日本)では ISOM2000、第3回(フィンランド)では ISSOM2005 が適用されています。第4回(ウクライナ)では併催の世界オリエンテーリング選手権(WOC)スプリント競技と同じテレインでの開催が予定されており、使用地図も ISSOM に決定しています。

今後の WOC のスプリント競技では ISSOM の使用が間違いの無いものと思われ、WOC と WTOC が併催される際にはスプリント競技に使用される縮尺が 1:4,000 または 1:5,000 の地図を、WTOC でも使う事になるものと考えられます。

また MTB-O 世界選手権と併催となった第3回大会でも ISSOM 準拠の地図であった事から、フットO世界選手権との併催でない場合も ISSOM に従った地図がトレイルO世界選手権でも用いられるものと推測できます。ですから ISOM でのトレイル世界選手権開催は第2回の愛知大会のみとなるのかもしれませんが。

トレイルOの今後

トレイルO世界選手権が ISSOM の地図で行われ続ける可能性が高い以上、それに適応できる力を日本の選手も維持し続けなくてはなりません。国内では ISSOM (あるいは JSSOM) で作られた地図も数多く見かける様になっています。それらを用いてトレイルOを行う

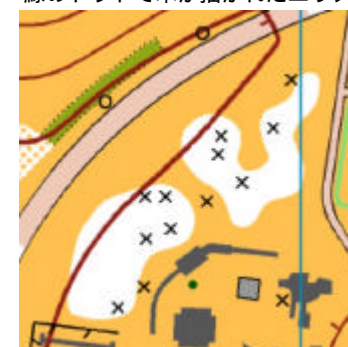
機会も増えてくるでしょう。そこで問題になってくるのは、やはり地図の品質です。

当然の事ながら、トレイルOの地図に対する競技者の目は、フットOのそれよりも大変シビアになります。その一方で、一般の競技者によるボランティアベースでの地図作製には精度的に限界があります。

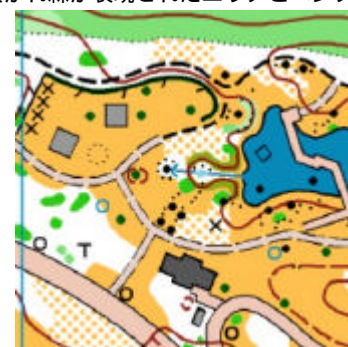
地図作成は、プロフェッショナルにお任せするべきであるとは私は考えています。そのためには相当の資金が必要となるわけですが、これまで地図調査、作成に当たっていた労力を資金調達(スポンサー獲得)に回す事を考えなくてはならないのではないかと、トレイルOに携わってからより強く思うものです。



緑のドットで木が描かれたエリア



白く抜かれ森が表現されたエリアとベンチ



BBQのエリア(ベンチは省略されています)

(藤島由宇)

ISSOM 地図だと、トレイルの課題のために特徴物を書き加えることは通常頻繁に行われているようです。それはある意味必然であったりするのですが、この地図は ISSOM 規定です。

規定をよく読むと、当然 ISSOM より細かく拾うのですが、あまりに細かいものまで取り過ぎないように、テレイン全体で統一をきちんとするように書かれています。なので、よほどの事情(例えば政治的な戦略的意図とか)が無い限り、その時の都合でトレイルの為に、特徴物を書き加えたり、地図を改変したりするのは、ちゃんとした ISSOM 地図に関しては絶対やめたほうが良いと思います。

この地図で木とかかれたものは木、白く抜かれただけのものは森なのです。同じく x ですが、小さいものは拾ってありませんし、BBQ上のベンチは全てが省略されています。(右図参照)

こういうものをその時のトレイルの課題の都合で書き足すのは、全体としてのバランスを欠き、あとで問題発生の元になります。何が拾われて、何が省略されているのか、それも地図読みの内という認識で、課題は今書かれているものを使って下さい。それでも十分すぎるほどのネタを提供していると思います。(山川氏コメント)